

# 自立活動だより

大府特別支援学校

2018.7.19 No.1

大府特別支援学校では、「自立に向けて、健康状態の維持・改善を図り、自分のよさに気付き、自己の持っている力や可能性を引き出しながら、主体的に行動できる力の育成をめざす。」という目標のもとに、自立活動の時間だけでなく、学校生活全般においてさまざまな活動をしています。

今年度も、児童生徒が取り組んでいる様子を、『自立活動だより』で紹介していきます。校内での取組に加え、施設内教育や訪問教育での様子も随時お知らせしていきます。

## 小学部



B S学級1組では、手指の巧緻性を高める学習をしました。春の陽気に誘われ、庭園で外気浴をしながら、しょうゆ差しのキャップ外しに取り組みました。指先に力が入るようになり、次々とキャップを外せるようになりました。周りの緑や風が心地良く、遠足気分楽しく取り組むことができました。

このようにその時々気候に合わせて、病院の庭園散歩で季節を感じたり、教室でマットの上に横になり体をほぐしたり体操をしたりしています。



2組は、体力づくりを目標に、けがに気を付けながら、体を動かしました。

卓球に熱心に取り組む、ラリーや試合を楽しみました。



▲卓球の様子

▲しょうゆ差しのキャップ外し

自分の体調や体力を考慮して、水分補給や休憩のタイミングを判断することができました。また、病棟で覚えた将棋やチェスの対戦もしました。効果的な駒の動かし方を学び、どんどん強くなっています。活動中は笑顔が多く見られ、とてもよい気分転換の場でもありました。

## 中学部

中学部の自立活動は、自立に向けて、将来よりよく生きていくために必要な力を身に付けることを目標としています。今回は、1学期の活動内容の一部をご紹介します。

『個別の課題学習』では、生徒一人一人が自分自身について振り返り、自分の目標を見つけることから

始めています。その目標に向けて、どのような力が必要か、どのようなことに取り組めばよいかを考え、活動内容を決定しています。相手とスムーズに話すことを目標に発語練習に取り組む生徒や、将来の夢に向けて体力をつけることを目標にトレーニングに取り組む生徒、集中力を高めることを目標にぬり絵に取り組む生徒など、一人一人が自分の目標を明確にし、主体的に活動することができました。



▲個別学習の様子

6月6日(水)

には「嫌な気持ちへ

の対処」というテーマで、『SST(ソーシャルスキルトレーニング)』を行いました。現実には起こりうる不快と感じる場面を設定して、生徒自身がロールプレイ(役割演技)を行いました。その後、嫌な気持ちになったときどのような言動をと

るのか、また、その理由をそれぞれ考え、シェアリングを行いました。授業後に生徒が書いた感想には、「うまく人と話せるようにがんばります。」「普段、その場で怒りや不安に任せて動いてしまうので、考える機会になった。いろいろな考えがあり、参考になるものがあつた。」「違う人の意見を聞いて、いろいろな方法ができると思った。」など、前向きな内容が多く見ら

れました。他者の考えを聞くことで、さまざまな対処方法があることを知り、自分に合った適切な対処方法を見つけることや、選択肢を広げることができた様子でした。今回の学習を通して、日常生活のさまざまな場面でも生かしてほしいと思います。



▲発語練習の様子



▲SSTの様子

## 高等部

高等部は、オリエンテーションで「自立活動で何を学ぶか」を確認した後、新しい環境に緊張している新入生の心をほぐすとともに、高等部全体の人間関係を円滑にするため、グループエンカウンターに取り組みました。まるくなって椅子に座り「この中で、ご飯よりもパンが好きの人？」などの題で該当する人は席を替わる「なんでもバスケットゲーム」や「好きな季節と言えば」というような題で、出来るだけチームで答えを同じにする「心を合わせようゲーム」をしました。これらのゲームで、お互いの意識の違いを知り、心を解放する楽しさを体験しました。



▲食育&生活習慣クイズ

その後、高等部恒例の食育について、今年度は12問の「食育&生活習慣クイズ」に全員で取り組みました。「間違えた方が記憶に残る」を合い言葉に、例えば「納豆はネバネバなので、血液をネバネバにする。○か×か？」など引っかかりやすい問題に楽しく取り組みました。



▲自主企画の話し合い

次に「コミュニケーション力を高める」を目標にして、3つのグループに分かれて1学期の終わりに発表するスタンプの自主企画の話し合いと練習に取り組みました。「どのようにしたら他のグループの人にも楽しんでもらえるか」を考えることの難しさを体験しました。そして本番の発表では、準備と練習の不足はあったものの、それぞれが自分の役割を十分に果たすことができている、明るく楽しい発表会になりました。

## 施設内教育 藤田保健衛生大学病院

小学生は、手指の巧緻性を高めることと力加減を調節することを目標にしてスーパーボールゲーム(大きなスーパーボールを2バウンド以上させて箱に入れるゲーム)と卓球に取り組みました。



▲卓球の様子

微妙な力の入れ具合で軌道が変わり、なかなか思ったとおりにはいきませんが、「もう一回やってみる」と言い、何度も意欲的に挑戦することができていました。

中学生は、「いろいろなゲームをしよう」でトランプ、けん玉、卓球など



▲カードゲームの様子

に取り組みました。児童生徒たちは、どの課題でも教師や友達とたくさんコミュニケーションを取りながら取り組むことができていました。

特に卓球では、正式なルールを学び、その上で自分たちに合った独自のルールを考え出す話し合いをもち、自分の意見と他の人の意見を調整していました。また、サーブやレシーブ、スマッシュなどの技術力がどの生徒も高まり、試合でも長いラリーが続くようになったために、勝敗にこだわることなくお互いにたたえ合う姿が見られました。それぞれの児童生徒が、日頃の教科の授業とは違ったいろいろな力を発揮することができ、楽しく有意義な活動ができました。